

## 第259回郵政民営化委員会後 委員長記者会見録

日時：令和5年3月23日（木）17:00～17:11

方法：Web会議

○司会 それでは、ただいまから、郵政民営化委員会山内委員長によります記者会見を行います。

本日もウェブ方式の会見としておりますので、大変恐縮ではございますが、御発言をされないときにはマイクをミュートにさせていただきますよう御協力をお願いいたします。

会見の進行ですが、冒頭、山内委員長に御発言をいただきまして、その後、質疑応答を行います。

それでは、山内委員長、よろしくをお願いいたします。

○山内委員長 郵政民営化委員会委員長の山内でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日の郵政民営化委員会の概要について御説明を申し上げたいと思います。資料についてはお配りのとおりでございます。

本日は、株式会社かんぽ生命保険の子会社の認可申請について、意見募集の結果報告とかんぽ生命関係省庁からのヒアリング等を行いました。また、日本郵政グループから、日本郵政グループのコンプライアンス遵守の状況についてヒアリングを行ったところであります。

最初の株式会社かんぽ生命保険の子会社の認可申請に関しまして、最初にかんぽ生命保険から、去る2月27日の説明に係る補足的な説明を行っていただきました。

続きまして、事務局から2月20日から3月13日まで行いました意見募集の結果について報告がありました。この意見ですけれども、団体等から4件、個人から2件ということで、概略については賛成が3件、反対が1件、その他が2件という状況でございました。委員会に参加して意見陳述を希望される団体等はありませんでした。

次に、金融庁及び総務省から、現在の審査状況のヒアリングを行ったところであります。これにつきましては、次のような質疑がありましたので、御紹介したいと思います。まず、ある委員から、かんぽ生命に対して人材の確保と、案件をどのように形成するか、見つけてくるのかという御説明を願いたいという質問がありました。

これに対してかんぽ生命からの答えですけれども、まず人材については、知識・経験のある人材をファンドマネージャー等で確保している。そして、経営部分では、当社にもベンチャー出資を経験した人材がおり、社長に置きたいと考えているということが一つ。それから、ソーシング、案件の発見については、ベンチャー企業について情報提供している会社から情報を得て、例えばヘルスケア事業のベンチャー企業は1,200社ほど存在するので、

こうしたベンチャー企業にヒアリング等をしながらか、様々な事業先を探しているといった回答が得られたところでもあります。

そういった質疑があったわけですが、最後にかんぽ生命保険の子会社の認可申請について、今後取りまとめを予定している意見書の論点整理を行ったということでございます。かんぽ生命保険の子会社の認可申請については、これまで意見募集の結果の報告、それから意見提出者や金融庁、総務省からのヒアリングを終えました。今後、これらを踏まえまして意見の取りまとめを行うということを委員の間で確認したということでございます。

以上が1件目の議題です。

2つ目は、日本郵政グループのコンプライアンス遵守の状況について、日本郵政グループからのヒアリングを行いました。これについて次のような御指摘がありましたので、御紹介しておきたいと思ひます。

このコンプライアンスの遵守問題について、お客様や社員からの声を吸い上げて、どのように改善したのか、また、どういった成果を上げているのかについてきちんと明示して、社員と共有する。そして、コンプライアンスの観点からよい方向へ向かうのではないかと考えているという趣旨の指摘が複数の委員からあったことをお知らせいたしたいと思ひます。

以上でございますが、次回の委員会の開催については未定ということでございます。

私からは以上です。ありがとうございました。

○司会 それでは、質問をお受けいたします。御質問がある方は、御発声または挙手ボタンでお知らせください。いかがでしょうか。

それでは、郵湧新報の園田様、お願いいたします。

○記者 郵湧新報の園田です。お世話になります。

金融サービスが全体的に近い将来にどんだんスマホで完結していくような姿になっていくと思ひますけれども、そうした時代の中で、郵便局が来局者をもっと確保していくために、どのようなところに力を入れていくべきと委員長は御覧になられておりますでしょうか。

○山内委員長 これについては、中期計画の中でも日本郵政のほうで書かれておりましたし、あるいは私が改革委員会をやっていたときも同じだったのですけれども、郵便局が今おっしゃるようなDXの進展に対してどういうふうに対応していくかについては、デジタルとリアルの中間役といいますか、接点をいかに埋めていくかというところに郵便局の存在意義、あるいは価値があるのではないかと、中期計画の中でもそういうことがうたわれております。

私もそのとおりだと思ひておまして、DXということでIT化がどんだん進んで、それに皆さんがついていけるわけではない。業務等についてもそういうところがある。いか

にそのギャップを埋めていくかということが郵便局の魅力になるのではないかなと思って  
おります。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

そのほかの方、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、御質問が特にないようですので、本日はこれにて会見を終了とさせていただきます。山内委員長、それから本日御出席の皆様、どうもありがとうございました。

○山内委員長 どうもありがとうございました。

以上